



シロイチモジヨトウの防除対策について

シロイチモジヨトウはハスモンヨトウやヨトウガと同類の広食性の害虫で、**ネギ、キャベツ、ハクサイ、レタスなどの野菜の他ダイズ、花き類などを加害します**。近年はネギを中心とする野菜類で被害の増加する傾向がみられ、問題となっています。茨城県病害虫防除所のフェロモントラップの調査（6月26日～7月25日）で平年よりやや多い～多い誘殺数が確認されています。**例年、秋にかけて発生が増加しますので、今後の発生に注意し、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。**



写真1 幼虫によるネギの被害葉



写真2 卵塊



写真3 卵塊から孵化した若齢幼虫



写真4 ネギの内部を食害する中齢幼虫

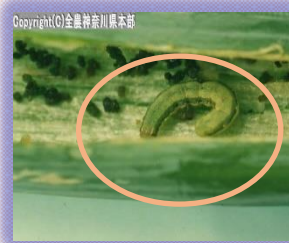


写真5 幼虫



写真7 蛹



写真6 成虫

写真1,3,4
茨城県病害虫防除所

生態

成虫は10～15mmの蛾で、葉裏などに卵を卵塊で産みつけ、ふ化した幼虫は集団で群生して食害します。その後、齢期が進むと分散して葉の食害や葉身の内部に侵入して食害します。

防除対策

- 施設栽培においては、成虫の侵入を防ぐため、開口部に防虫ネットを展張して侵入を阻止します。
- 圃場をよく観察して、卵塊やふ化直後の幼虫の集団を発見したら、早急に捕殺します。
- 幼虫の齢期が進むほど薬剤の防除効果が低下する傾向があります。ネギなどでは葉身内に侵入する前の若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底します。
- 薬剤散布の際は、**作物ごとの登録内容や収穫前日数に十分注意**し、薬液が葉裏や株元にも十分かかるよう丁寧に散布します。散布後は防除効果を確認するとともに、薬剤抵抗性の発達を抑制するため、RACコード分類（*）の異なる薬剤でローテーション防除します。

表 シロイチモジヨトウに登録のある主な薬剤

（令和7年8月7日現在）

薬剤名	作物名					IRACコード*
	ネギ	キャベツ	ハクサイ	レタス	ダイズ	
トレボン乳剤	○					3A
ディアナSC	○					5
アニキ乳剤	○	○		○		6
コテツフロアブル	○	○				13
トルネードエースDF	○	○	○	○		22A
ベネビアOD	○	○	○	○		28
ベリマークSC	○	○	○	○		
ヨーバルフロアブル	○	○	○			30
グレーシア乳剤	○	○	○	○		
プロフレアSC	○	○	○	○	○	UN
プレオフロアブル	○	○		○	○	



効果高

ディアナSC、アニキ乳剤、グレーシア乳剤、プロフレアSC

トレボン乳剤、トルネードエースDF、ベネビアOD

ヨーバルフロアブル、プレオフロアブル

ゼンターリ顆粒水和剤

カスケード乳剤、アクセルフロアブル、プレバノンフロアブル5

効果低

図 シロイチモジヨトウに対する殺虫効果試験結果
（令和5年 病害虫発生予報3月号 防除所レポート）



- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。
- 営農 News は J A 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。